令和4年度　学校評価表（自己評価）

安芸太田町立安芸太田中学校

安芸太田町教育21もみじプラン教育目標　「地球・世界的規模の視野を持ち，世界や地域社会に貢献する人づくりをめざす」

ミッション	地域社会に貢献できる生徒の育成	ビジョン	主体的で協調的な学びの推進
学校教育目標	学びを生き方につなぐ教育の創造	学校研究主題	深い学びを引き起こす授業づくり
めざす生徒像	挑戦 感動 感謝の心をはぐくむ生徒		～「知識構成型ジグソー法」を取り入れた単元開発と評価を通して～

中期経営目標	短期経営目標	評価項目及び評価方法		評価基準	担当分掌	中間評価	最終評価	達成状況及び改善策（かっこ内の数値は前期）	評価委員の意見（最終）
学力の向上	学習意欲の向上と自主学習の充実	基礎的・基本的な知識・技能の定着	・生徒質問紙「なぜ学ぶのか自ら考える」の肯定的回答85%以上 ・自主学習60分以上の生徒85%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	教務研究部	A	B	生徒質問紙「なぜ学ぶのか自ら考える」の肯定的回答率…72.8%(72.1%) 自主学習を60分以上取り組んでいる生徒…59.1%(84.4%) 自主学習が提出できていない生徒が固定化してきている。 「なぜ学ぶのか」の自由記述で，「学ぶことで得られる思考力や判断力などを育んでいくため」や「日本の色々な問題を少しでも解決するため」といった本質的な記述が見られるようになった。	「なぜ学ぶのか」について，学びの本質に迫る意見が多く見られたことから，そのことを生徒観で共有して考えさせる機会を設けられるとよい。 個人面談の実施や学力に応じた課題の提示を長期休業中だけでなく，単元ごとに実施してはどうだろうか。 保護者へのさらなる啓発と協力依頼により，家庭学習時間の確保と保護者への具体的な支援方法を助言することも重要だと感じる。 自主学習は教科学力的にしんどい生徒に対し，本人とコミュニケーションをとる中で宿題的な内容をさせることも必要ではないか。 自主学習を行うことでどのようなメリットがあり，やらないことでどのようなデメリットがあるのかを具体的に伝えていくとよいのではないだろうか。 学ぶことで得られる思考力・判断力など学びの本質にせまる記述が見られるようになったことは評価できる。一方で，自主学習については一人一人に対応した丁寧な指導が必要かと思われる。担任や担当が頑張るというより，限られた時間の中で，組織的に動ける仕組みが必要かと思う。 自主学習の取組は，自分の好きなこと，得意なことは進んですることはできるが，不得意な教科や苦手な教科をいかに克服するかも大事。学ぶ意欲を高めつつ，レベルアップできればよい。
								学びを活用させる場を意図的に設定する。また，学びが生活や社会と関わっていることが感じられる授業を推進する。 各教科で行っている授業のまとめや振り返りシートを，「学びプラン（仮）」として呼称を統一し，生徒の意欲向上や目的意識，見通しを持つ力，調整力につなげる。	
	協調学習の実践	深い学びを引き起こす授業の実践	・生徒質問紙「友だちの考えを聞いたり，自分の考えを伝えたりすることで，学習内容の理解が深まる」の肯定的回答100% ・各種学力調査で，すべての教科の平均正答率等が全国平均を上回っている。	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下		A	A	生徒質問紙「友だちの考えを聞いたり，自分の考えを伝えたりすることで，学習内容の理解が深まる」の肯定的回答率…95.4%(100%) 2月に全学年で実施した標準学力調査では，全学年15教科中14教科において全国平均を上回っていた。	個々の学力の状況を丁寧に把握し，苦手分野を克服させる取組がされているのだと感じた。 自己表現という新たな入試制度に余裕をもって臨めるよう，全校生徒の前で発表する機会などを増やしていけるとよい。 勉強をする環境には恵まれていると思う。近くに塾がない中で全国平均を上回っているのは安心できる情報である。 ディベート授業を取り入れてはどうだろうか。
								深い学びは主体性と協働性に大きくかかわることから，「知識構成型ジグソー法」による協調学習の実践研究をさらに進めるとともに，個別最適な学び（生徒が学び方を選択・決断できる幅を広げる）を推進する。	
社会に貢献する力の育成	自らの成長が実感できる	進路指導の充実及び進路実現に向かう意欲・態度の向上	・生徒質問紙「将来どんな大人になりたいか考え，そのために取り組んでいる」の肯定的回答率100%	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	進路連携部	A	A	生徒質問紙「将来どんな大人になりたいか考え，そのために取り組んでいる」の肯定的回答率：86.4%(90.6%)	将来の自分が考えられることは，「努力」「学び」につながることだと思う。向上心を持ち続ける指導ができていることは素晴らしい。 コロナ禍の影響で職場体験学習の実施が難しい状況ではあるが，社会にはどのような職業があるのかという職業観を広げる授業を実施していけるとよい。 生徒は第3次産業に目を向けすぎる傾向があると思うので，第1次産業から第3次産業について，就業人口割合などを調べるなど，それぞれの産業の特徴を調べる学習をしてはどうだろうか。 自己表現については「話下手」の生徒が萎縮することのないよう言語以外の方法も含めてできることで自信を持たせる必要があると思う。 1クラスの人数や教室の広さなど，大きな夢がもてるように，他の中学校のことを知る機会を作ってもよいのではないかと思う。 なりたい自分を考え具現化するのは大人でも大変難しいことだと思う。それに取り組む前向きな姿勢があることだけでも素晴らしい。
								「自己を認識する力，自分の人生を選択する力，表現する力」を育む取り組みを継続するとともに，社会と学校や日常生活とのつながりを意識させる。（ステップアップシートの活用，自己表現朝会の充実，キャリア教育の視点を取り入れた授業改善や特別活動の充実，地域貢献活動の充実）	
	実践意欲の育成	自己肯定感の向上	・成功体験と自信(i-check)の肯定的回答率85%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	生徒安全部	A	A	「成功体験と自信」の肯定的回答率は，1年76.6%，2年75%，3年97.2%だった。「自分には，いいところがあると思いますか。」の肯定的回答率が，前期から上昇した。（1年生：75%(72.2%)，2年生：70.0%(69.2%)，3年生：88.9%(71.4%)）	3年生が中心となって大きな行事や委員会活動を成功させることで自信を持たせる。また，1・2年生にとって3年生が憧れの存在となり，よい循環ができるとよいと思う。学期ごとの反省が次の改善につながるようなサイクルをシステムとして構築しておけるとよい。 ボランティアは評価がなかなか難しい分野だが，学校通信などで町内に広報し，保護者が労いのことばをかけられるようにしていけるとよい。 自分のよさは自分では気づけないことが多いと思うから，他者からの評価などを取り入れていけるとよい。 学年が上がるにつれて意識が向上していると感じる。これは，安芸太田中学校で適切な教育活動がされている証でもあると思う。先輩の行動が手本となり，「そうなりたい」「やってみたい」というよき伝統につながっていると感じる。 自己肯定感が高いのは，教職員が日頃から生徒を大切にしているからだと思う。 コロナ禍でしたいことが制限される中，体験する機会を少しずつ増やしてこられた学校には感謝したい。今後，地域との結びつく機会は増えると思うし，対応したい。
								教育相談やSHRなどを通じて肯定的な評価を行い，生徒の自己肯定感の向上に努めた。また，体育祭や文化祭などの学校行事，三段峡のボランティア清掃活動を実施した。3年生を中心に各行事に取り組んだことから，3年生は数値が上がっている。来年度は，1・2年生の活躍する場面を増やし，各学年の自己肯定感を高めていきたい。	
	地域貢献の意欲と態度の育成	地域貢献活動への参加	成果指標 ・社会参画(i-check)の肯定的回答率85%以上 ・地域貢献活動後の生徒の感想(肯定的記述)	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下		A	A	「社会参画」の肯定的回答率は，1年89.6%，2年83.3%，3年85.2%だった。	コロナ禍が落ち着く中で，地域の活動への参加が再開されると思う。地域住民としては中学生の参加を大きく期待している。 ボランティア活動でも中高連携を行っていってはどうだろうか。 学校では内外で工夫がされていると思う。地域でも積極的に生徒を受け入れて活動をさせることで，自信をつける場を提供していくことを考えなくてはいけないと感じた。 地域貢献活動やボランティア活動に主体的に取り組む生徒が多い中で，世の中にはどのようなボランティア活動を行っているのかを知り，活動の裾野を広げていけるとよいと思う。 活動内容を継続していってほしい。生徒たちも地域住民の一人として責任をもって活動できるようにさせてほしい。 地域を知ることで，地域愛が芽生え，誇りをもち，将来に渡って地域に根ざす人が一人でも増えていけばよい。
								三段峡や筒賀大銀杏のボランティア清掃，桜の植樹作業など，地域貢献活動を数多く実施し，実施後の生徒の感想からは肯定的な記述が多くみられた。来年度も引き続き，特別活動や総合的な学習の時間等での学習を通して，地域とのつながりを大切にした，生徒が主体的に取り組む地域貢献活動を行っていきたい。	
信頼される学校をつくる	学校の公開性の向上	保護者・地域への教育公開及び情報発信の充実	・保護者の学校満足度…90%以上 ・教職員の「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」に対する肯定的回答率90%以上	A:80%以上 B:60～80% C:60%以下	総務部	A	A	保護者の学校満足度は91.2%(90.3%)であった。「生徒は，家庭学習に継続して取り組んでいる。」が73.3%と他の設問と比べて低い。 教職員の「生徒と向き合う時間が確保できていると感じる」の肯定的回答は61.5%(81.8%)であった。	家庭学習を促す方法の一つとして，単元テストの実施や家庭学習とリンクした学習内容の提示などを取り組んではどうだろうか。また，予習をする中で出てきた疑問からスタートした授業があってもよいと思う。 生徒の教職員や学校に対する評価も評価項目に加えたらよいと思う。 どんな場面で生徒が教員と向き合う時間を求めているか判断するのは難しいと思う。いろいろなチャンネルをつくるという意味で，地域とのつながりも生かせるとよいと思う。 学校からの提案に家庭が応えきれていないのもあると思う。働き方改革の推進は良いことで世の流れであるが，小規模学校であるので，情報交換や共有はことが小さいうちに対応するという意識でいてもらいたい。
								家庭学習や3点固定などの取組は家庭との連携が必要となるので，目的も丁寧に説明をしながら，学校と家庭がこれまで以上に連携しながら取組を進めていく。 新型コロナ感染拡大で学校行事等の見直しを図ってきたが，その成果の部分を生かしていきながら，学校の働き方改革を進めていく。	